

特別活動 「人権教室」

横浜市立上菅田小学校



単元（題材）目標

- 私たちの周りには、いろいろな人がいることを知り、自分も相手も大切にしていこうとする心をもてるようにする。
- 聴覚障がい者は、どのような手段で気持ちを伝え合っているかについて知る。

(1) 実施時期 11月末

(2) 対象（学年等・人数） 第2学年校児童 130名 第2学年担任教諭 4名

(3) 指導者（教諭・外部講師等）

外部講師 1名

第2学年担任教諭の友人で、子どものための手話教室を主宰していた人がいたため、その方に講師を依頼した。

(4) 実施内容

◎ 講師の先生のお話を聞く

- ・わたしたちの周りには、いろいろな人がいて、みんな幸せに生活したいと思っていることに気付く。
- ・聴覚障がい者は、どんなことに困るのか、どのような方法でやりとりをしているのかについて知る。

◎ 手話体験

- ・手話表現に親しみ、体験する。人と関わるときに特に大切な言葉として、次の5つを体験する。

「おはよう」「ありがとう」「ごめんね」「どうしたの」「だいじょうぶ」

(5) 成果

身の周りにはいる人はみんな自分と同じではなく、いろいろな人が生活しているということを改めて考えていた。その中で、聴覚障がい者という、耳の聞こえに障がいがある人がいることを知り、手話に親しむことができた。呼んでも振り返らない人がいたとき、無視されたと思いがちだが、もしかしたら聞こえないだけかもしれない。自分の思い込みではなく、相手の立場はどうだろうと考えることの大切さに気付くきっかけとなった。翌日からは、廊下で会うと手話であいさつをしたり、他の手話も知りたいと質問したりする姿が見られた。